

FOCUS

恵寿総合病院
Keiju General Hospital

2013年11月23日、七尾市富岡町に
恵寿総合病院の本館が完成した。
緊急搬送、災害対策のための
ヘリポートも病院屋上に設置された。

創立80周年事業 恵寿総合病院 本館竣工



80周年を迎えて

1934年9月11日に、神野病院としてこの七尾の地に誕生した董仙会。今年、80周年目を迎えました。その前身は、七尾出身で金沢医学校を1期生として卒業後、日清戦争に従軍、その後栃木県宇都宮で神野勇三郎が開院した神野病院にあります。その勇三郎の死後、生前に薫陶を受けた娘婿神野正隣が、地域から請われ、能登で初めて盲腸の手術ができる外科医として、七尾の地に外科・内科病院、神野病院を開設したことに始まります。二代目である神野正一が公益性を目指し、医療法人、特定医療法人化、また関連する社会福祉法人を設立し、現在の恵寿総合病院と関連施設を総称する医療福祉複合体“けいじゅヘルスケアシステム”の礎が誕生しました。

これまで80年の歴史に一貫して恵寿の遺伝子があったと思います。それは、時代時代での進取の気質であり、アントレプレナー（entrepreneur:企業家精神）にあったと思います。地域の医療や介護のニーズに応えるのではなく、常にニーズを先読みして、新たな事業を掘り起こしてきたものであります。そして、それは、これから来る高齢化社会においても、そのニーズを先読みして躊躇することなく応えることで、私たちのプレゼンス（存在意義）を高めていくことにあると思っております。

FOCUS

恵寿総合病院

Keiju General Hospital

この80周年を迎えて、私たちは幾つかの事業を行います。その中心は、今回竣工を迎えた恵寿総合病院本館であることは言うまでもありません。一部が築50年になる一病棟、築38年になる二病棟、新しい医療技術や防災への対応の必要性もあり、さらにアメニティーや効率性に劣るこれら施設のリニューアルは喫緊の課題でした。しかし、厳しい医療情勢の中で「これから」に悩んでおりました。そんな中、国の耐震化特別交付金の情報が入り、石川県の強い後押しもあり、この補助金の交付決定による私たちの夢は走り始めたのでした。

4年前の2009年6月、今回のコンストラクティブマネジメントをお願いした三菱商事と協議を開始し、基本計画が動き始めます。まずは、業務改善で私たちの体力を付け、その後の立体駐車場の建設から本事業は始まったのです。





恵寿ギャラリー

しかし、2011年3月11日の東日本大震災は私たちを震撼させました。はたして海の傍に病院を作つてよいものかという疑問が、地域の方ばかりではなく、病院職員からも上がります。そこで、当初計画を変更して、災害に強い、地域のBCPの要となる病院を作ることとなりました。

そして、昨年の3月2日、旧第2駐車場跡地で本館となる新棟の着工となりました。着工に至るまで2本の市道にかける上空連絡通路建設計画では地元町会、七尾市行政や警察・消防の皆様には大変ご協力をいただきました。10月31日、本館は完成し、同23日に竣工式を終えました。

今後の事業について紹介します。既存の三、五病棟の改修工事にかかります。将来的には、上空連絡通路で結ばれたこれら病棟毎に、機能を分け患者さんの病期と求められる医療機能に合わせたもっとも適切な医療を提供したいと思います。

さらに、今年度末から、一病棟、二病棟の解体工

事を開始します。同時にその二病棟跡地に、透析クリニック開設と高齢者複合施設建設を徳充会事業として行い、2014年度末竣工を目指します。これにつきましても本年9月6日に石川県から認可をいただきました。ローレルハイツ恵寿(仮称)は、病院至近、安心の高齢者住宅となります。

さらに、去る11月15日の董仙会臨時理事会で承認いただいた上、11月20日にNTT西日本様との間



エントランスから恵寿シーサイドホール



で、金沢市の旧市街地・橋場町交差点近くの伝統あるNTT西日本金沢病院の事業譲渡契約を締結しました。両者のノウハウと技術を融合させ、2014年7月から、新たに恵寿金沢病院(仮称)として、運営させていただきます。

これからの 地域医療について

人口ピラミッドで常に突出してきた戦後のベビーブーマー世代は、日本の高度成長を担い、その価値観は、現代の日本社会の骨組を作ってきました。華やかで豊かな物質社会とその裏腹に、孝行や道徳といった言葉を蔭へ押しやったのもこの世代かもしれません。そして、全国的に、この世代が、2025年には後期高齢者である75歳に突入し、その子世代の団塊ジュニアが2060年には75歳に突入する



救急センター

のが問題視されています。

常に新しい社会を作ってきたこの世代が迎える高齢化社会、超高齢化社会は、われわれが今想像する高齢化社会とイコールではないかもしれませんが。そこでは、これまでと異なる価値観が生まれてくるかもしれないと思います。

働き盛りが人口ピラミッドの中心であり、日本の経済成長率も高かった時代には、医療の役割も明確でした。すなわち、医療は患者さんを「救うこと」「治すこと」に力を注ぎ、国は救急医療や労災医療の充実に腐心し、経済界はそのために事業者としての多額の保険料を拠出し、病める労働者や傷ついた労働者を一刻も早く元の生産現場に戻すことを目指したのです。

しかし、これからの高齢者社会、超高齢化社会において医療に求められていることは、「救うこと」「治すこと」以上に、「支えること」「ともに生きること」「癒すこと」そして「看取ること」となるでしょう。働き盛り年齢を過ぎ、すでに生産年齢を終えた国民に対しての医療に、国も経済界も税や保険料のさらなる投入に難色を示しています。それだけに、これからの医療の持続可能性について危惧されているところでもあります。ここでは、私たちの地域における存在意義を明確にアピールし、国民も経済界もその必要性を認識していただかなければなりません。

そして、当院が位置する七尾市は、全国が2025年に迎えようとしている高齢化30%をすでに達成し

ています。さらに能登北部医療圏では40%に達そう
としています。このような全国、全世界でも抜きんで
た高齢化地域だからこそ、全国、全世界の範となる
ような地域医療体制の構築が必要と考えます。

そこでは「救うこと」「治すこと」に特化した“地
域の安心”の担保となる急性期医療をきちんと提供
した上で、「支えること」「ともに生きること」「癒すこ
と」そして「看取ること」に対応した地域包括ケアに
積極的にかかわることが必要だと思います。私たち
は、この高齢者地域だからこそ、医療福祉複合体
グループの総力を挙げて“面倒見のいい医療介護
福祉を提供”したいと思っています。そのために、全
施設オンライン化とともに最新の仮想化(クラウド)環
境、さらに人による優しいかわりをめざしたコール
センターを構築してきました。同時に、地域の医療・
介護施設との情報連携、人による連携を構築してま
いりました。

FOCUS

恵寿総合病院
Keiju General Hospital

これらの先進的なシステムと人のつながりの構築
は、単なる地域住民の安心ばかりではなく、今後増
加する都市部の高齢者にとっても魅力的な地域に
映るに違いありません。それは、能登や金沢を訪れ
る観光客(交流人口)に頼った地域活性化から、定
住人口増加による地域活性化を目指す道として地
域に貢献できればと思っています。



恵寿シーサイドホール



バイブレーション 血管造影室



新棟(本館)について

本館は、三菱商事がコンストラクティブマネジメント(CM)を行い、設計は伊藤喜三郎建築研究所・竹中工務店設計共同企業体、施工は竹中工務店で、RC造・地上7階建、建築面積約3700㎡、延べ面積約16000㎡、免震構造の建物です。特に以下のような事業継続計画(BCP)への取り組みを重視して建築しております。

- 地盤液状化対策として、格子状地盤改良(TOFT工法)の採用
- 県内では、金沢大学附属病院に次ぐ免震構造の採用
- 水害・津波対策として1階床の高さを約2mかさ上げ
- 非常用発電機・受変電設備・メインサーバーの上階設置
- 変電所2回線受電方式の採用
- 県内病院初の屋上ヘリポート設置
- 1階ホール等を利用したトリアージスペースの確保、同スペースには非常用電源や医療ガス配管
- 4階屋上を避難スペースとして活用

これらによって、災害時の安全と安心、さらには地域の防災、安心の要となることを目指しております。

また、診療機能では、1階正面玄関に入って海側にエントランスホール、恵寿シーサイドホールがあり、外来患者さんは初診、再診受付の後エスカレーター、またはエレベーターで2階に上がっていただきます。シーサイドホールにはカフェも営業しています。また、病棟専用エレベーターへは玄関から右手に進みます。道中には長谷川等伯による七尾の原風景である国宝『松林図屏風』のパネルから、当法人の80年の歴史、そして同じく等伯による『恵比寿大黒花鳥図』のパネルが並ぶ恵寿ギャラリーを設置しています。その他、1階には放射線部門(3.0テスラMRI、2管球128スライスCTなど2機、バイブレーション血管造影装置など2機など)、薬局、救急センターを配しています。

2階には外来診察室、採血室、生理機能検査室、処置室、化学療法室、病児保育室などを配しています。特に一般外来は、フリーアドレス化し、診療日ごとの診療室の増減に機動的に対応していま

す。液晶掲示板によって患者さんの誘導、さらに大小7室の問診や相談、指導に用いる部屋を設置しています。

3階には内視鏡、検査部門、急性期に特化したリハビリ部門、手術部門を配します。内視鏡室には4室の内視鏡室とリカバリーチェアを20席配置、さらに隣接してX線テレビ装置を設置してあります。手術室は5室あり、空気清浄度クラスIIを標準とし、1室はバイオクリーンルームとして空気清浄度クラスIとして設定してあります。

4階はICUとCCU、5階、6階は1フロアは2看護単位の病棟となります。本館病床数は223ベッドとなります。また、多床室は6×6mの大きさに4ベッドを配置。急性期病床の設えとして、ベッド間スペースをスタッフが使うケアゾーンと設定し、床の色を塗り分け、カーテンの設置にも工夫し、壁には医療用コンソールを設けました。これによって、患者さんのプライ

FOCUS

恵寿総合病院

Keiju General Hospital

ベートスペースと明確に区分しております。

また、今後2本の上空連絡通路でつながる既存の三病棟と五病棟も大規模な改修を加えます。将来的には本館が外来と高度急性期、急性期の医療を担い、三病棟には慢性期（障害者病棟）、産科、健康管理センター、管理部門を配置します。五病棟には、回復期としてリハビリテーション病棟や亜急性期病棟、リハビリテーションセンター、研修室や講堂を配する予定です。



私たち“けいじゅヘルスケアシステム”は、地域で面倒見のいい、安心の医療や介護・福祉サービスを通じて「先端医療から福祉まで生きるを応援したく」思います。変わりゆく日本社会の中で、新たな90周年、100周年の時に、職員が胸をはって自らのサービスに誇りを持つグループにすることをお誓いしたいと思います。



神野 正博 | Masahiro Kanno

社会医療法人財団董仙会
恵寿総合病院 理事長

専門：消化器外科

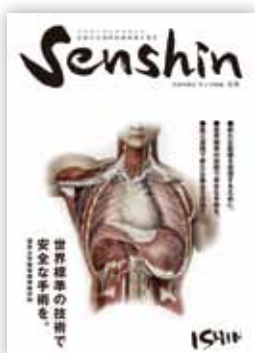
全日本病院協会副会長、七尾市医師会会長、石川県病院協会理事などの他、厚生労働省や経済産業省で臨床研修制度、チーム医療、医療の産業化などの委員会委員を務める。





社会医療法人財団 董仙会
(けいじゅ ヘルスケア システム)
恵寿総合病院

〒926-8605 石川県七尾市富岡町94番 TEL.0767-52-3211 FAX.0767-52-3218
URL <http://www.keiju.co.jp>



このパンフレットは、医療情報誌
「SENSHIN no.40」2014.1-2月号
掲載ページを抜粋しました。